

23/11/7 名古屋市公共事業評価監視委員懇談会  
名古屋市民オンブズマンによるメモ

13:27

高橋：司会 企画経理係長  
前回 現場視察に行った  
追加資料について説明 16:20 ほど  
質疑応答  
評価議論  
名鉄名古屋本線 H18 着工採択 再評価

伊豆原：事務局説明後意見交換

宮原：緑政土木局東山総合公園再生整備課  
H22 概要版抜粋  
種別→地域別展示に  
R 元改訂版  
目標 R18 年度 350 万人  
上野動物園 500 万人 第 2 位  
R4 238 万人 目標達成できず  
R5 270 万人見込み  
費用便益比

13:47

伊豆原：意見は

岸田：説明を H22 と R1 どう変わったのか 中身

宮原：資料を外して並べればわかりやすい

岸田：中身を

宮原：整備したものを写真に置き換えた

伊豆原：整備済みを写真で置き換えた  
考え方が変わった？

宮原：考えは変わっていない

岸田：比較しながら見ればわかる

鈴木：前回意見

用地取得 19 ページ

費用便益比 5 年 事業すべて？

宮原：平成 2 年から

鈴木：何年から何年まで

宮原：1988 年－2039 年

平成 19 年実施

鈴木：50 年間

この時の数値と、利用者の入場予測は関係性は？

根拠の数値と予測シナリオと関係性はあるのか

全然別物？

宮原：調べます

鈴木：大きな数字 なんのもの？

数値計算 結果は出ている

今回資料 入園者の予測との関係

まるいち番に入っている？

岸田：「競合公園と比較し」どこ？

事務局：競合公園 匹敵する近隣、はなれたところピックアップ

具体的は 92 公園

岐阜市、岡崎、同心円状に

岸田：規模は関係なく？地域？

事務局：供用中＋大規模＋近隣

国営公園も含めて

伊豆原：この数字は何時から何時までの数字か  
費用は工事したもの？  
350万人を想定して出されたのか  
ここで議論するのは5年

宮原：平成19年度 プランを行うにあたって評価した  
整備が終わった後を評価

伊豆原：50年 費用変わる

宮原：補正をかけている 補正後の数字

鈴木：1988年-2039年  
入園数とは別の話  
今回の議論 費用便益比 意味のなさない数字に思えるが  
5年間 どういうお金をかけて効果があるか  
見込み 進みますか 事後評価  
2.867 採択したときの評価 問題ない  
その後30年経過し、5年間 なんともピンとこない

伊豆原：5年間を評価してください  
50年はこう  
話がしにくい

宮原：この事業 5か年の費用便益分析していない  
このまま事後評価書 書かせていただいている

鈴木：17ページ 数字は5年で抜き出すとどうなるか  
数字を見られているのか

宮原：見ていない

伊豆原：20.21ページ 5年間  
50年間費用便益比 2.87  
18億5100万円かかった

入場目標には達しなかった 238 万人  
コロナの影響が大きい

宮原：そう認識している

鈴木：費用便益分析 50 年を入れるとよくわからなくなる  
5 年間の評価 240 万人→270 万人にする  
実態 238 万人  
5 か年平均とか数字を議論した方がいいのではないか  
コロナ事情 下がっている  
今年 R5 回復しますよ

宮原：今後の参考にしたい

伊豆原：令和 4 年の数字だけだとどうか  
コロナで閉園 特異値と説明  
達成できなかったのは事実  
R5 近づく 今後は前向き

岸田：92 競合公園 数字が出ていれば  
比較するなら数字が欲しい  
評価はなかなかできない  
費用便益 2.87 ここに書くことが妥当か

宮本：5 か年 コロナの影響もろ  
入園者見込み 一般的  
指標としては正しく出ない  
ほかの事業においても多々出ている  
ほかの自治体がどう評価しているのか  
通常よく使う数字 この 5 年は意味をなさない

宮原：他自治体は把握していない

伊豆原：情報は持っていない  
上野動物園 天王寺より多い  
上野はどうだった、天王寺はこう  
東山 そんなに落ちていない？頑張った？

回復度合いが高い？

宮本：令和 2 年落ち込んだ  
これからどれだけ伸びたか

伊豆原：基準年は H28 年

宮本：他動物園数字  
R2 東山動植物園が 1 位  
閉園状況が違う  
R3 全国 1 位  
R4 上野に抜かれた  
上野 R2 9 位 R3 9 位

小野：コロナの 3 年 数字計画の良し悪しの反映ができない  
それ以上言わないといけないか？客観的と違う  
書くべきところはここの数字 反映しない  
それぞれの動物園の事情もある  
私の意見

宮本：だからこそ他自治体はどう評価しているのか参考になる

伊豆原：他自治体が評価しているのは入手できるのか

事務局：公表しているのは参考にできる  
評価の方法はそれぞれ違う

岸田：すべてを比較する必要がない  
17 ページ「競合公園と比較」して評価  
そこと比較しないと評価にならない  
せめて上野と天王寺  
文章上の表現

鈴木：費用便益 比較  
5 年 評価指標は別物  
ややこしい  
費用便益はおいておかないとわかりにくい

238 1時点 H30 増えている  
コロナ 営業日数が減っている  
営業日数で割った数字 どれくらい落ち込んでいるか

宮原：最初の2年は増えている

鈴木：入園者数で評価するのは決まっている？

宮原：そう

鈴木：数字を読み取る

伊豆原：まとめ

2.87 説明資料としてつけた  
23 ページ 事後評価のコメントの仕方  
他動物園の状況はこう  
比較は参考値  
東山が極端な数字ではない

事務局：参考にさせていただく 事業効果  
ある程度反映されていると書きたい

伊豆原：国に対してこういう書き方がいいの？  
特記事項は市民向け

宮原：要因はこのよう

伊豆原：コロナにもかかわらず 238 万人も来た  
60 万人、100 万人切ったら大変  
バス 6割-7割 ひどいときは半分  
利用者数はようやく8割回復

宮原：参考にする

伊豆原：ほかは  
東山公園は終わり  
5分休憩

14:34

14:38

伊豆原：次の評価事業 名鉄

奥村：住宅都市局街路計画課

27 ページ

29 ページ R6年度 都市計画案、環境影響評価など

事業認可、工事着手へ

名鉄8%負担

国55% 名古屋市45%

H22.H30に評価した

交通量は減少している

一定数の踏切事故が発生している

費用便益分析マニュアル R5年度 1.27

別場所アンケート 8割以上が便利になった

費用便益分析 50年

R3パーソントリップ調査をもとに算定

現在着工準備時期間-事業期間-完成後評価期間

濃い色 社会的割引率後

連続立体交差事業 670億円概算事業費

費用に対して便益が1.27倍確保できる

本事業は必要と考える

進捗 鉄道事業者との協議 定期的に進めている

14:58

伊豆原：なにか

岸田：29ページ  $55\%+45=100\%$

奥村：92%の55%と45%

鈴木：費用便益分析詳細

30ページ 過年度と比較

歩行者・自転車便益が増えている

コスト圧縮している 100億

奥村：歩行者・自転車

37 ページ 迂回解消便益

移動時間が短縮 加えていい

今回なるべく正確にやろう

事業期間 計算したのが大きく長くなった

鈴木：歩行者・自転車 あまり考えていなかった

過小評価だったということか

事業評価が長いことで便益の圧縮

費用が減っているのは逆 影響は大きくなるのでは？

奥村：35 ページ 費用が長くなる

鈴木：かけているお金 最初にかければ小さくならない

別で工法 圧縮したのか？

計算期間だけで100億変わるの？

奥村：それだけ

費用が掛かるのはたしか

工事 後ろの方にかかれば用地買収 後ろにかかる

割引率がかかる

鈴木：事業期間 何年想定が何年？

奥村：H30 20年

R5 35年

鈴木：納得した

伊豆原：事業期間 20年→35年 ルールが変わった？

市街地の形成 あまりにも時間がかかりすぎる

踏切遮断量

高架そのもの

35年 ルールが変わったのか？

奥村：ルールが変わったわけではない

事業化 議論した結果こうなった



全体 3.9 キロある  
なるべく費用対効果高いところから 2 分割する  
全体としては長くなった

伊豆原：工事の影響を見ていない  
工事の期間長くなると、周辺環境長引く  
生活影響大きい  
なるべく短い期間であげたい

事務局：27 ページ 天白川から  
より買収早く 南側を先行して完成  
その後北側を事業  
合計すると 35 年

伊豆原：南は鳴海で上がっている

鈴木：分割する  
20 年→35 年  
南 1/3 15 年 2/3 20 年  
便益の計算も同様？

奥村：そう

伊豆原：コスト 100 億減ってると想定  
名古屋市連立事業 負担が減る  
国が 55 億 名古屋市 45 億得する？

事務局：670 億円 事業費 40 ページ  
割引率 232 億円  
便益を計算するとそう

伊豆原：じっさいにかかる費用と費用便益分析計算は別？

事務局：薄い色 670 億円  
濃い色 毎年 4%減少 230 億円

伊豆原：実際には H30 370 億かかる

今回違った？

事務局：事業期間 前は 20 年想定→35 年  
後ろ 割引率が聞いてくる

伊豆原：20 年→35 年 得するの？  
事業費が減っちゃう  
評価する側はプラス  
実際には 670 億 詭弁みたい  
同じ事業を 20 年→35 年 得する？  
市民は 35 年 得する

奥村：計算上 費用も便益も下がる  
得とか損ではない  
価値は薄くなっていく

伊豆原：市民に説明できるか  
よくなる  
事業年度を伸ばしたらよくなる どうやって説明するか？  
マニュアルおかしいのでは？  
条件が変わらずに年度が変わるだけで  
平成 22 年-平成 30 年 変わらない  
平成 30 年-令和 5 年 こんなに変わるの？

岸田：割引率の設定 現実に合うのか？

奥村：マニュアルではそうなっている  
H16 10 年物国債  
国妥当性議論  
変わってくるかと思う  
マニュアル通りにやった

伊豆原：難しくなる

事務局：ご心配ありがとうございます  
第 1 回、第 2 回、第 3 回評価  
考え方、マニュアル違う

今回の評価で効果がある

伊豆原：説明するのに苦しい

鈴木：35年 分割 説明資料にない  
15年でこういう効果がある

伊豆原：説明力を  
今日の議論

奥村：前回は踏まえてこれを持ってきた

伊豆原：3回目の評価 過去はどうだった？  
市民から

鈴木：20年で計算するとどういう数字？

奥村：今回はやっていない

鈴木：35年でやると決めて計算

奥村：分割でやるということ アセスに記載

伊豆原：過去2回  
今のマニュアルはこう

鈴木：分割して15年かかる費用+便益 出せる  
最初の事業 1超えている  
後半20年  
全体で1超える

岸田：前半大きいならつじつまがあう

伊豆原：それは  
両方とも1超える？

奥村：わからない

鈴木：わからないのは説明できない 問題

岸田：数字を出した方がいい

伊豆原：1 を超えていれば

奥村：ばちっと分けれる部分と、工事しながら買収

伊豆原：順番順番に

事務局：第1期と全体を出す やってみる

伊豆原：説明するのにわかりやすい

鈴木：説明しやすい

伊豆原：後ろが1切ると厳しい

事務局：1期と全体にさせてほしい

伊豆原：大きなお金  
都市計画決定 スケジュールは

奥村：かけない

岸田：35 ページの表 完成後の50年  
事業期間35年

奥村：これはイメージ  
2段に分ける

伊豆原：わかりやすく 40 ページ  
前半と後半に分けて

鈴木：事業期間35年 1期目15年 2期目20年と記載いただけるか

事務局：書きたい

伊豆原：ほかにあれば

莫大な金がかかる ぜひ頑張って

休憩

15:31

15:36

伊豆原：中川運河

横地：下水道計画課

43 ページ 概要説明 全市的な考え方から

47 ページ 浸水対策の考え方

過去最大降雨量 97mm 東海豪雨

近年大雨が多発

平成 27 年 5 月水防法改正 ソフト対策

63mm 10 年に 1 度

100mm 過去最大

他都市の目標

49 ページ 既存はオレンジ 新規は赤

まずはオレンジに雨が入る

雨が終わったらポンプでくみ上げ

赤とオレンジ破線 広川ポンプ所で連続排水

貯留のみ→ネットワーク化

千種区大和地区

平成 20 年 8 月末豪雨 17 棟+39 棟→平成 24 年 9 月豪雨 0 棟+4 棟

43 ページ 再評価

質問があれば

伊豆原：全体の話

岸田：48 ページ 緑が 104 か所

横地：全部をプロットできなかった

5000 立米以上を書いた

岸田：貯留量 これより以下はいくつ

横地：数えればわかる 51カ所

43 ページ 令和元年度 浸水対策

中川運河上流 交通結節点

今年度採択後 5 年で再評価

44 ページ 費用効果分析マニュアル

令和 4 年度まで 継続と中止を比較

全体の投資効率性

赤実線が供用済み 赤破線が未供用

社会的割引率 4%

45 ページ 総事業費 690 億 建設費 536 億円 残事業 154 億円

維持管理費

改築更新費 耐用年数後、建設費と同額

便益 軽減される浸水被害額

継続 51 億

中止 31 億

残事業 21 億

46 ページ 継続 1.46 残事業 2.77

残事業+10%変動したらどうなるか 1.0 を上回る

内部収益率 4.0%を上回る

まとめ

伊豆原：質問は

岸田：最後 6 内部収益率 4%を上回るはどこ？

横地：表 9

岸田：この中のどれ

横地：すべて上回る

岸田：中止した場合も？4%を上回る

横地：そう 条件として4%として計算 基本ケース

感度分析 4%として計算

6 番目 社会的割引率 4%ずっと続くか？

十分余裕を持った計算

岸田：B/Cで見ている

横地：Iを上回らないとだめ

Iになる分岐点

基本ケース 継続した場合 社会的割引率が6.1%なら1.0

岸田：中止した場合4.7%なら1.0

投資効率性は？

横地：一緒 残事業2.77が1.0になるには社会的割引率12.9

仮定の確認 費用対効果

鈴木：進捗状況示して

図3 残事業費用

未供用長い 破線

建設自体の進捗は？

横地：なにをもって進捗

鈴木：どれくらい

横地：名古屋中央雨水調整池

シールド工法 トンネルは貫通

点検したりしないと水を入れられない 工事中

鈴木：全体2割くらい 進んでいる？

横地：名古屋中央雨水調整池 令和6年度完成を目標

岸田：図1写真はどこ？

横地：全部こんな感じ

岸田：了解

伊豆原：ほかに

岸田：45 ページ 表 2 決まっている？

横地：当局 維持管理実績

岸田：これまでの実績値

鈴木：まとめ

費用効果 残事業

「事業が順調 確認できたので再評価としてはよい」

横地：評価 残事業の投資効率性

特段遅れもなく進んでいる

鈴木：文言を入れては

再評価なので

事務局：入れておきたい 5年間で進捗どこまで 持ち合わせていなかった

あくまで5年分事業費

事業そのもの順調

文言工夫したい

伊豆原：ほかに

事業順調であれば、これで完成とはいかないが

地域での完成はいつくらい

施設が完成、供用出来て完成

供用出来そうなときはいつか

横地：ポンプ場令和6年度未完成 7年度供用予定

全体はもう少し

伊豆原：ポンプ場ができなくてもためることは可能

事務局：現在貫通 名古屋中央雨水調整池 地下50メートル

50メートルくみ上げる仮設ポンプ 世の中に存在しない

広川ポンプ所 完成してから



今年完成したものを貯めるかどうか 議論をした  
貯めるとどうなる？ 左ポンプ場 避難の問題  
暫定的な共用は難しい

伊豆原：管路で貯めるのは難しい  
ため池より管路

事務局：104か所 箱型とパイプのもの混在  
浸水対策2つ スピード感  
浸水被害早く助ける  
箱もの 一定の用地が必要  
もともと部分 広域的 広いところから水を集める  
現在はパイプが名古屋市  
大曾根駅 ロータリー用地が確保できた 池  
パイプが必要

岸田：広川ポンプ所 50m上までスムーズにいける

事務局：地上に水を上げないと流せない

伊豆原：広川ポンプ所だけでできる？

横地：それだけで運河に流す

岸田：できたらぜひ見に行きたい

伊豆原：浸水したら  
テレビで取り上げられた  
大切な施設 市民の目に触れるのは難しい  
メッセージ、PRは

横地：メディア活用 当局 大規模工事 ホームページでアップ

事務局：先月市民見学会 募集した  
非常に人気が高く 100何倍  
テレビなど働きかけている

小野：見学会はまだあるのか

事務局：工事中 安全確保タイミング

うまくやれない

なるだけ回数を増やしたい

毎月やるのはできない

伊豆原：防災訓練 避難 排水

出たものを出す 初めて知ることが多い

上水は見える 出す部分は関心が薄い？見えない

見えるようにしていただくのは大切

頑張るって

16:24

事務局：懇談会 資料の公表

議事内容 提言としてまとめる

提言を各委員修正送付 確認

事後評価書、再評価確認

本年度中に市のホームページに掲載したい

踏まえた形で事後評価書

一部修正して

懇談会委員の皆様にご協力いただく

伊豆原：なにか説明

鈴木：第3回は

事務局：予備日と設定した 第3回はない

メールで

伊豆原：メールで確認 なければ

事務局：住宅都市局企画経理課長

草地：長時間にわたり貴重な意見 ありがとう

コロナ禍 B/C考え方 説明が分かりずらかった

貴重な意見 最終的な評価中身 生かしたい  
市民にとってよりよい公共事業になるよう活かしたい  
今後とも市民ニーズにこたえたい  
あいさつとしたい

事務局：終わり

16：29

----

事務局に確認

今年は第2回で終了  
先生に確認して 最終的に提言 ご意見いただいて  
評価書反映したものをウェブサイトに公開  
市長に手渡しはしない  
例年だと3月